

日教組 両性の自立と平等をめざす教育研究会



全体会の様子



分科会の様子

8月3・4日、日本教育会館にて、「2018年度 両性の自立と平等をめざす教育研究会」が開催されました。基調報告後、東京大学大学院教授の本多由紀さんが「ジェンダーをめぐる日本社会の現状と課題」という演題で講演を行いました。安倍政権下で家族支援という名の下に行われている様々な施策の問題点について話されました。午後は、「入門・ジェンダー平等教育」「職場におけるセクシャルハラスメント」「男子の性教育の必要性と可能性」の3つの講座が開かれました。具体的な事例をあげながら、それぞれのテーマに関して学びを深めました。

2日目は、「ジェンダー平等教育を考える～性の多様性への理解を広げる～」 「働き方改革とジェンダー」 「デートDVの予防教育と相談対応について」 「自分の性の考え方を振り返る～「LGBT」を題材にして」の4分科会に分かれて熱心な議論が展開されました。

【学校におけるジェンダー平等】

2016年4月に文科省は「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施（教職員向け）」を発出しました。この中では、性的マイノリティの子ども の存在を前提とし、きめ細やかな対応が必要であるとの認識を示しています。

<参加者の感想>

- 視点の違う意見を聴くと、あたりまえと思っていたことがちょっと待ってという気持ちにさせられる。この研究会の講演はそのような刺激を与えてくれたのでありがたい。参加してよかった。
- 問題提起をされた志賀氏の話をお聞きすると、未だに職場における正規と非正規、男性と女性との格差が非常に大きいものであるということがよくわかった。そして、それを是正していくために、如何にユニオンが重要であるか再認識をした。

- 学校におけるマイノリティ当事者への配慮について、グループワークした際には、男女どちらなのかといった二項対立的な発想ではなく、個々人のニーズに寄り添える学校システムと配慮事項について、共通認識を持つことの大切さを考えることができた。
- 他県の事例を聞いて、学校現場で児童生徒に対して「性的マイノリティー」への対策を考えていけないといけないと感じた。まずは、宿泊学習（修学旅行）の企画運営段階から、性的マイノリティーへの配慮・対策を考えると良いと思った。もう、取り組んでいる学校があることを知った。